



Possible starts here

2022年6月24日

クラレ経営説明会

株式会社クラレ
代表取締役社長 川原 仁

本日のアジェンダ

- ① タグライン “Possible starts here” 策定について
- ② クラレグループのサステナビリティ

タグライン“Possible starts here”策定について

1980年代～1990年代



2000年代～2010年代



未来に化ける新素材
kuraray
株式会社 クラレ
ミラバケ(ッ)ソ

2022年～

kuraray

Possible starts here

kuraray

Possible starts here

タグラインに込めた思い

- クラレグループを起点として、顧客やパートナーと新たな価値を共に創っていききたい。
- 当社は、「世のため人のため、他人（ひと）のやれないことをやる」という使命のもと、独創性の高い技術により新領域の可能性を拓いてきました。
- 今後も世の中の課題や環境問題の解決に、当社の独創的な技術が貢献できると信じています。
- 新たな可能性のはじまるところ、それがクラレです。



—新たな可能性は、ここから始まる。—

可能性を追い求める挑戦こそが、常識を覆し、世の中に大きな進化をもたらします。

20世紀初頭、パイオニア精神を持った一人の起業家が、ある可能性を追い求めました。

企業で働く人と、その企業に関わるすべての人を大切にし、社会への貢献と事業の成長を両立させるという挑戦です。

それがクラレの始まりです。

およそ100年を経た21世紀の今、私たちにはかつてないほどの大きな挑戦が求められています。

たとえば、安全な水の確保、フードロスの削減、温室効果ガスの削減などへの挑戦。

たとえば、独自のアイデアで新しい顧客体験を生み出す挑戦。

“世のため人のため”を追い求める私たちの信念は、創業当時から変わりません。

クラレはこれからも、社会の幸せのために。

クラレはこれからも、化学の力を信じて。

そして、クラレはこれからも、お客様とともに。

私たちは、力を合わせることで、新たな可能性が始まることを知っています。

そして、より良い世界が生まれることも。

より安全で、より快適で、よりサステナブルな未来を実現するために、クラレは皆さまとともに挑み続けます。

ストーリー

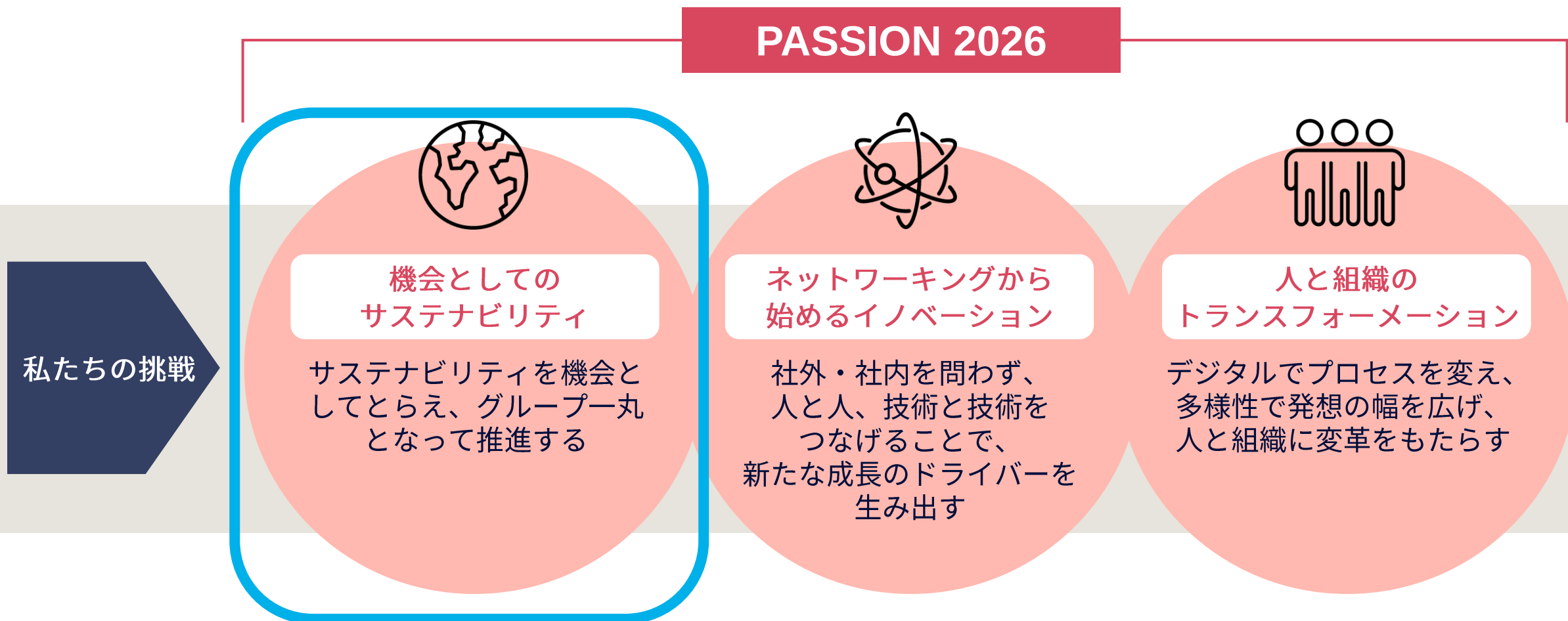
- タグラインの背景である、創業以来当社が大切にしている思いと価値観をより深く伝えるストーリー

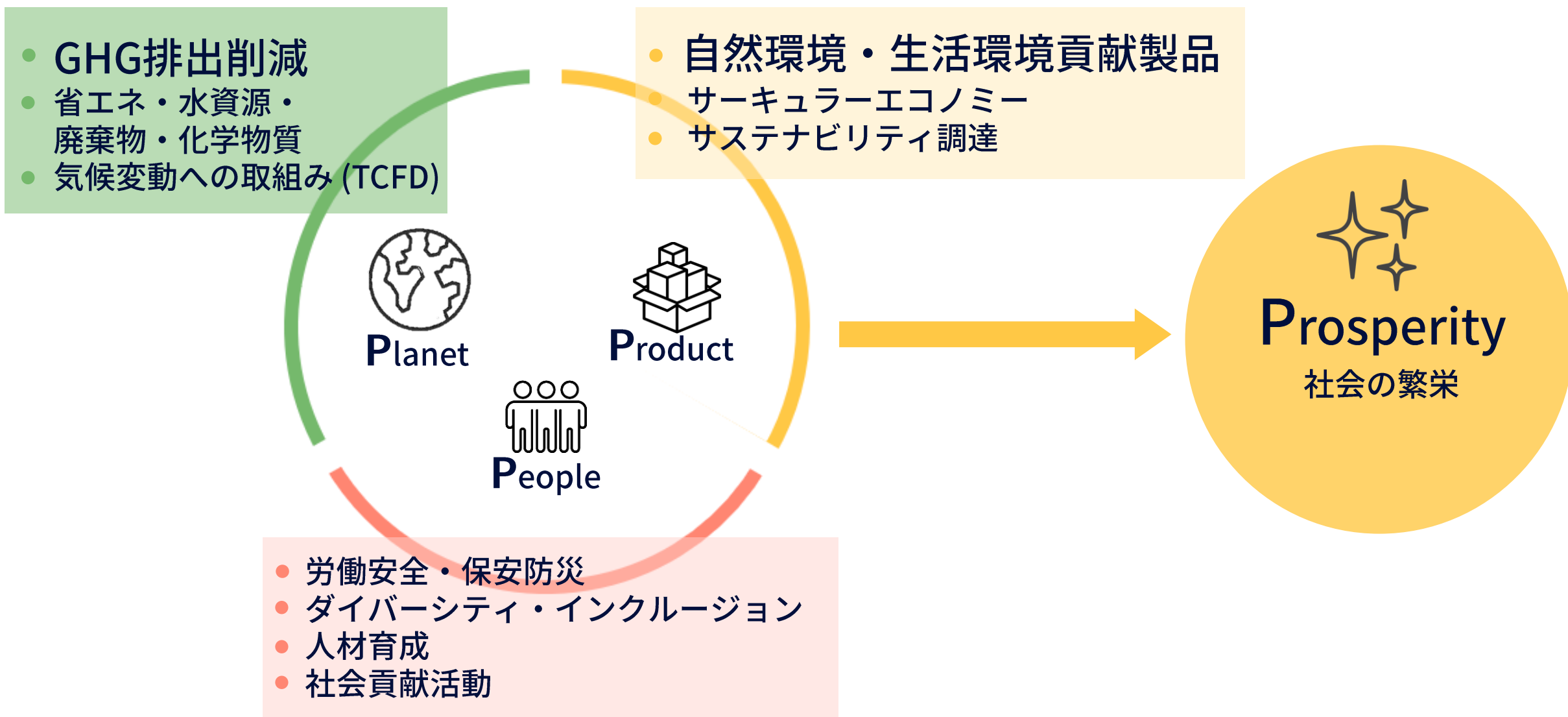
タグラインの展開

- ウェブサイトや広告等においてコーポレートロゴマークと共に使用し、クラレグループの想いを、社員を含めたステークホルダーの皆様に伝えるためのコミュニケーションに活用

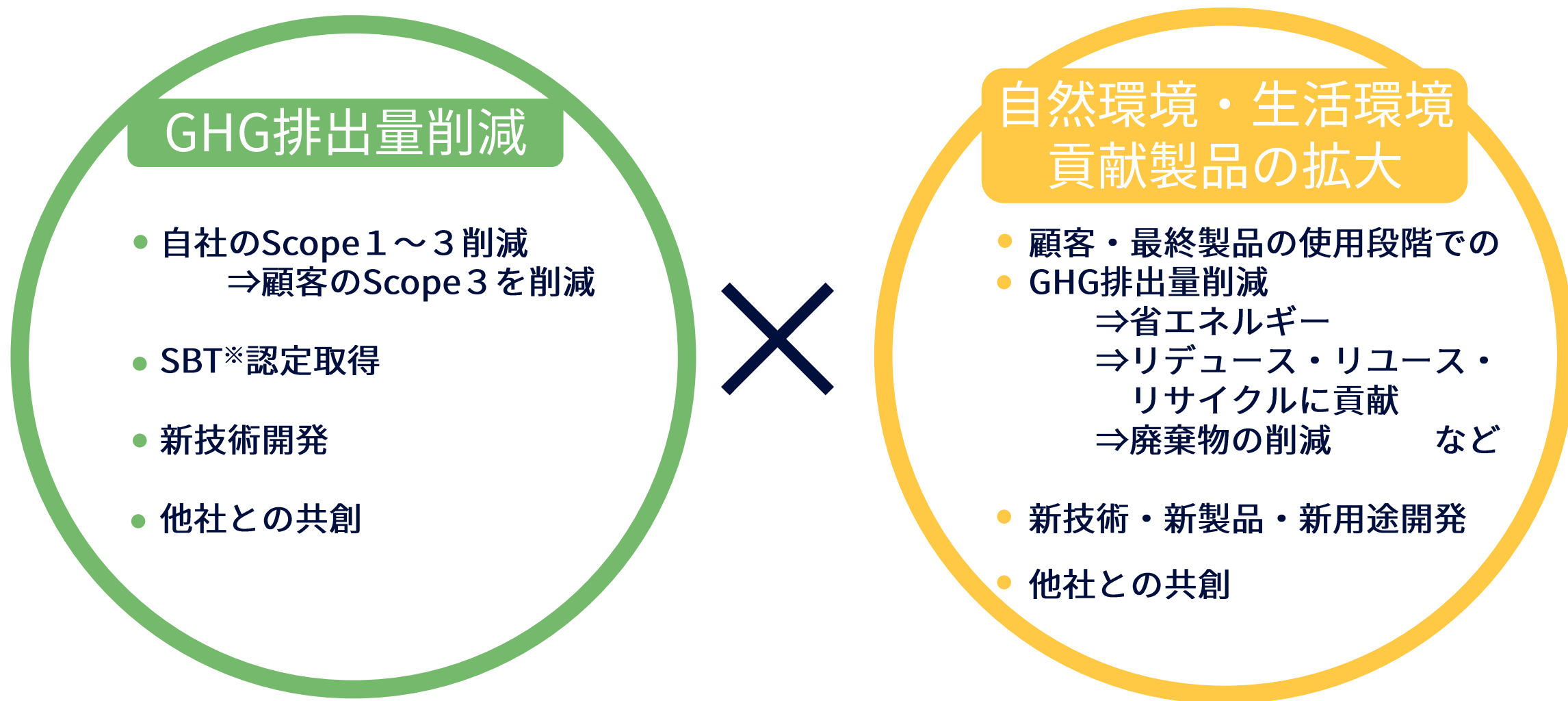
クラレグループのサステナビリティ

■ 中期経営計画“PASSION 2026”期間中に取り組む3つの挑戦を設定



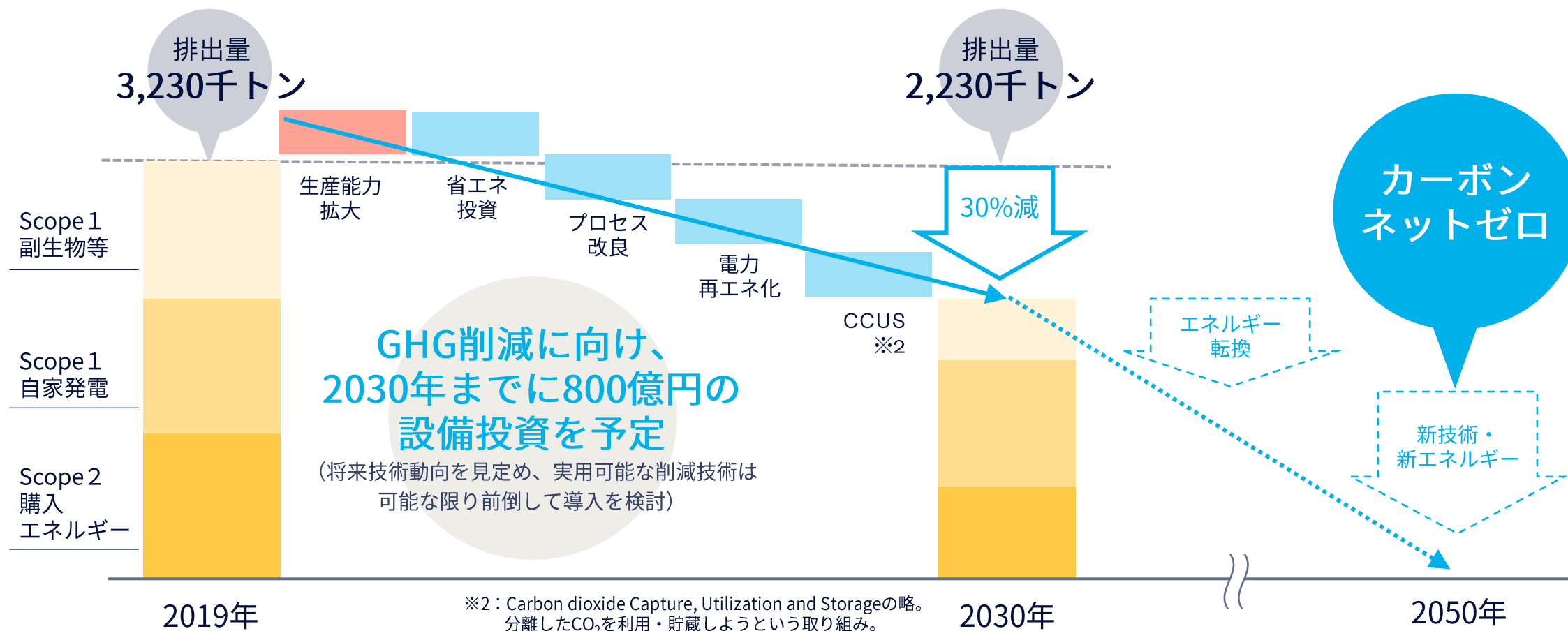


「GHG排出量削減」と「自然環境・生活環境貢献製品の拡大」を両輪に価値創出



2050年カーボンネットゼロ※¹ 実現に向け、2030年までに2019年対比30%の削減

※¹：Scope1、2におけるGHG排出量を対象

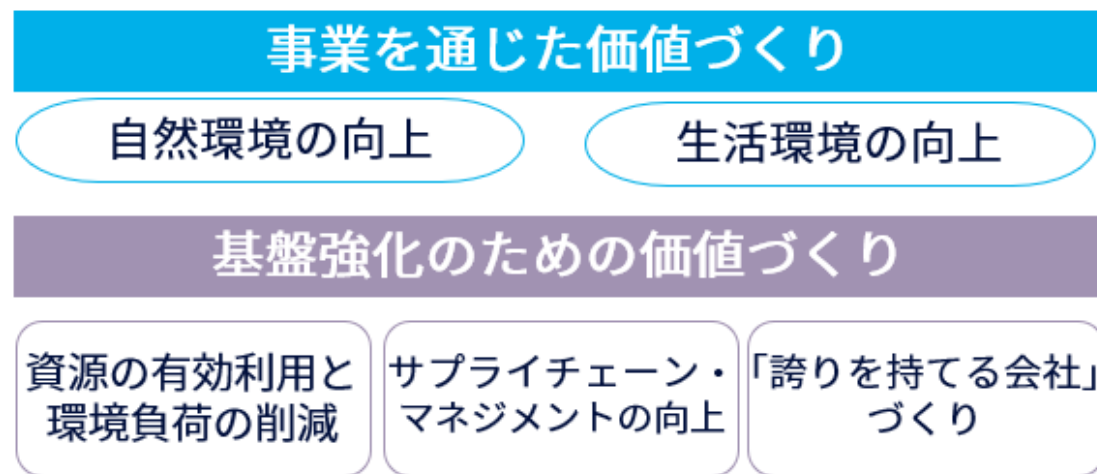


2024年度早期のSBT認定取得が目標

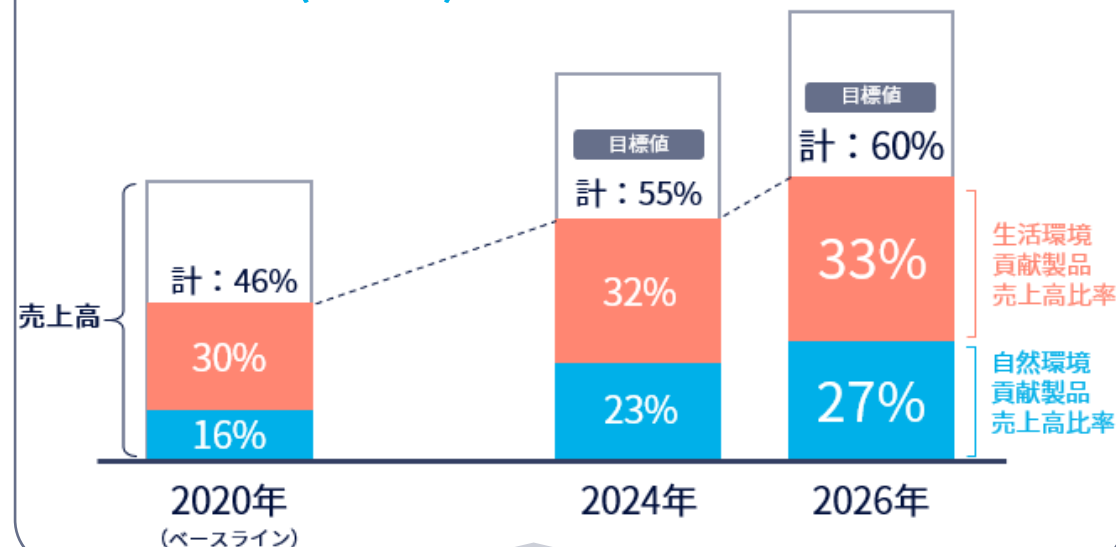


※Life Cycle Inventory：対象製品のライフサイクルを通じて排出される二酸化炭素や消費する金属資源の量、発生する廃棄物などの環境負荷物質の量

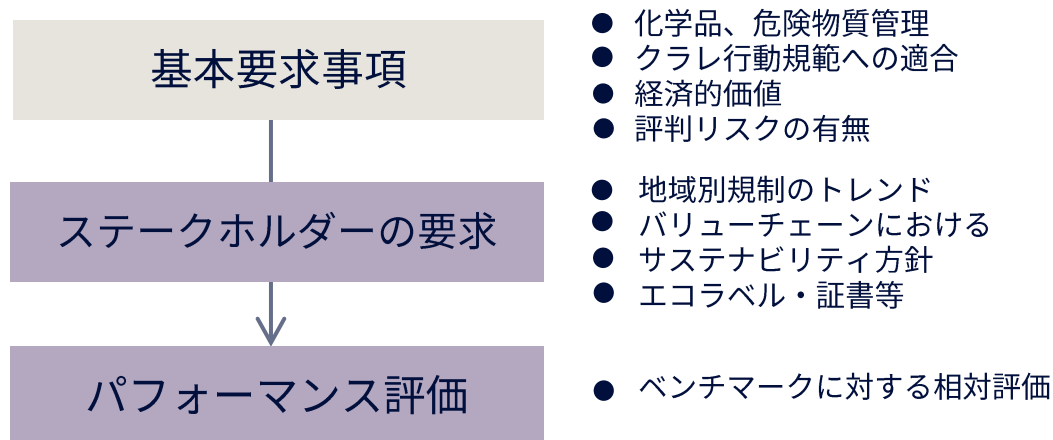
①事業部・各社がマテリアリティ貢献製品の中期計画を立案



③高スコア(4 or 5)製品を基準に全社計画を策定



②クラレPSAシステムを構築、客観的評価を実施



<評価ランク>



当社における
貢献製品



wbcscd

- PSAは、WBCSD（持続可能な開発のための世界経済人会議）がさまざまなセクターの企業がより持続可能な製品ポートフォリオを築くために開発した評価システム
- 化学業界向けの専用ガイドラインがあり、これに準拠したクラレPSAシステムをSphera社の支援を受け構築

シグナルカテゴリー

必須

- ライフサイクルを通じた化学物質の汚染及び暴露
- グローバル法規制動向
- エコラベル、認可
- バリューチェーンにおけるサステナビリティへの要求
- 代替ソリューションと比較したパフォーマンス

任意

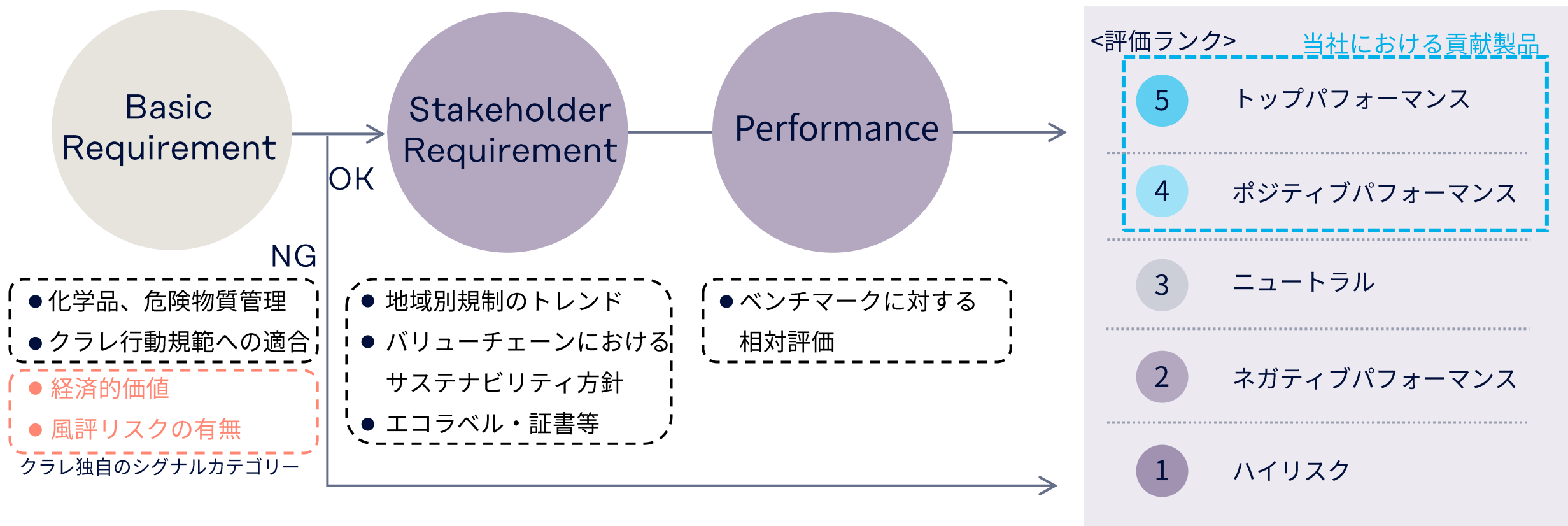
- 経済性価値の創出対自然資本の活用
- 持続可能な開発目標への貢献
- 社内方針・目標

出典：“Chemical Industry Methodology for Portfolio Sustainability Assessment”
URL: <https://www.wbcscd.org/Programs/Circular-Economy/Resources/Chemical-Industry-Methodology-for-Portfolio-Sustainability-Assessments>

●：クラレPSA評価システムで採用したシグナルカテゴリー

■ 評価の基本単位：PARC

Product、Application、Regionの組み合わせ（Combination）



■ パフォーマンス評価の要素に、生活環境に貢献度の高い要素を算入

パフォーマンス評価選択項目

-
-
- バイオマス・リサイクル原料の使用
- 製造時のG H G 排出量
- エネルギー使用の効率化
- 水使用量の削減
- 最終製品の長寿命化（耐久性の向上）
- 安全性の向上
- 健康増進
-
-
-

- 必須選択項目
- 自然環境に貢献度の高い項目
- 生活環境に貢献度の高い項目

「自然環境の向上」「生活環境の向上」製品とPSA評価のポイント

自然環境の向上

アスベスト代替

- ビニロン
 - ・ セメント建材の耐久性向上
 - ・ 競合品に比しGHG排出量少

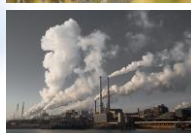
バイオ・リサイクル原料

- バイオ原料の液状ゴム
- ポリエステル〈エコトーク〉
- 人工皮革〈クラリーノ〉
- ・ Scope 3 の削減



水・大気の浄化

- 活性炭



- ・ 再生化が容易
- ・ 環境規制への適合性

物流の負荷低減/ フードロス削減

- EVOH樹脂〈エバール〉
 - ・ リサイクル可能 (CE※への貢献)
 - ・ 食品廃棄物の削減
- バイオ由来〈PLANTIC〉
 - ・ Scope 3 の削減
 - ・ 食品廃棄物の削減



生活環境の向上

歯科医と患者の負荷軽減

- 歯科材料
 - ・ 治療時間の短縮
 - ・ 製品の長寿命化による再治療リスク減

通信の高速化

- 〈ベクスター〉
 - ・ 高速通信を実現



EVの軽量化

- 耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉
 - ・ 最終製品の耐久性向上

※CE：サーキュラーエコノミー

■ 自然・生活環境貢献製品のスクリーニング以外への展開

指標として

- 開発フェーズにおける
ステージゲートシステム
- 新增設備投資の判断基準

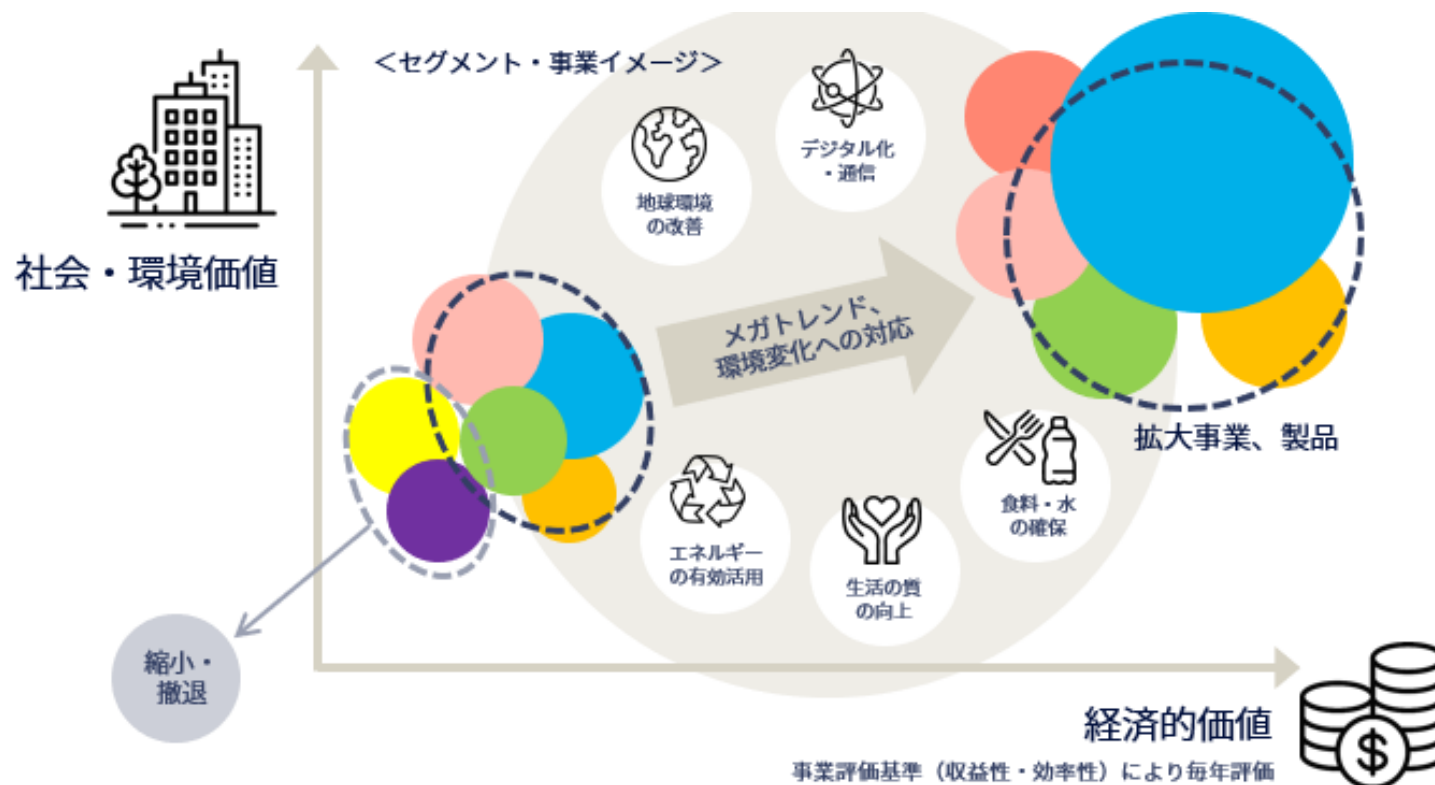
日常業務で

- マーケティングや用途開発の
シミュレーションシステム
(アイデア創出)
- 製品の訴求ポイントの確認

■ 社会・環境価値の評価要素にPSAとICPを使用



※ICP : Internal Carbon Pricing



■ クラレグループのICP制度

社内炭素価格	10,000円/トン - CO ₂	(海外においては社内為替レートを用い換算)
適用開始	2022年1月1日	

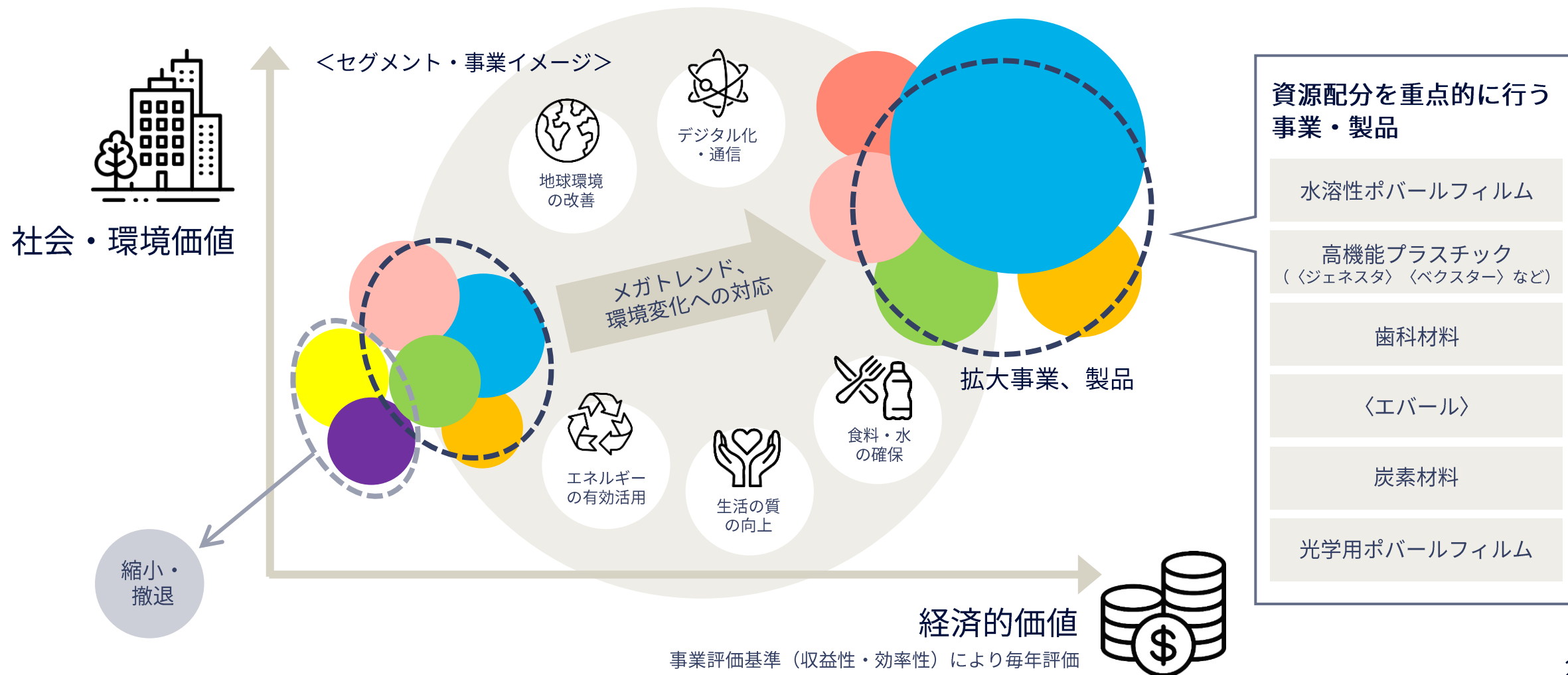
既実施

- GHG排出量の増減を伴う設備投資
- 社内炭素価格で費用または収益換算し、投資判断のひとつの基準として運用

導入検討中

- 各事業、製品毎のGHG排出量を社内炭素価格で費用換算し、将来の炭素税等への耐性を評価

- 社会・環境価値、経済的価値を考慮の上、用途・地域などの構成組み換えを継続し、ポートフォリオを高度化



kuraray

Possible starts here

● 本資料中の〈 〉表記は、クラレグループ製品の登録商標です。

kuraray